

第7章 松山遺跡の調査

I 遺跡の立地と環境

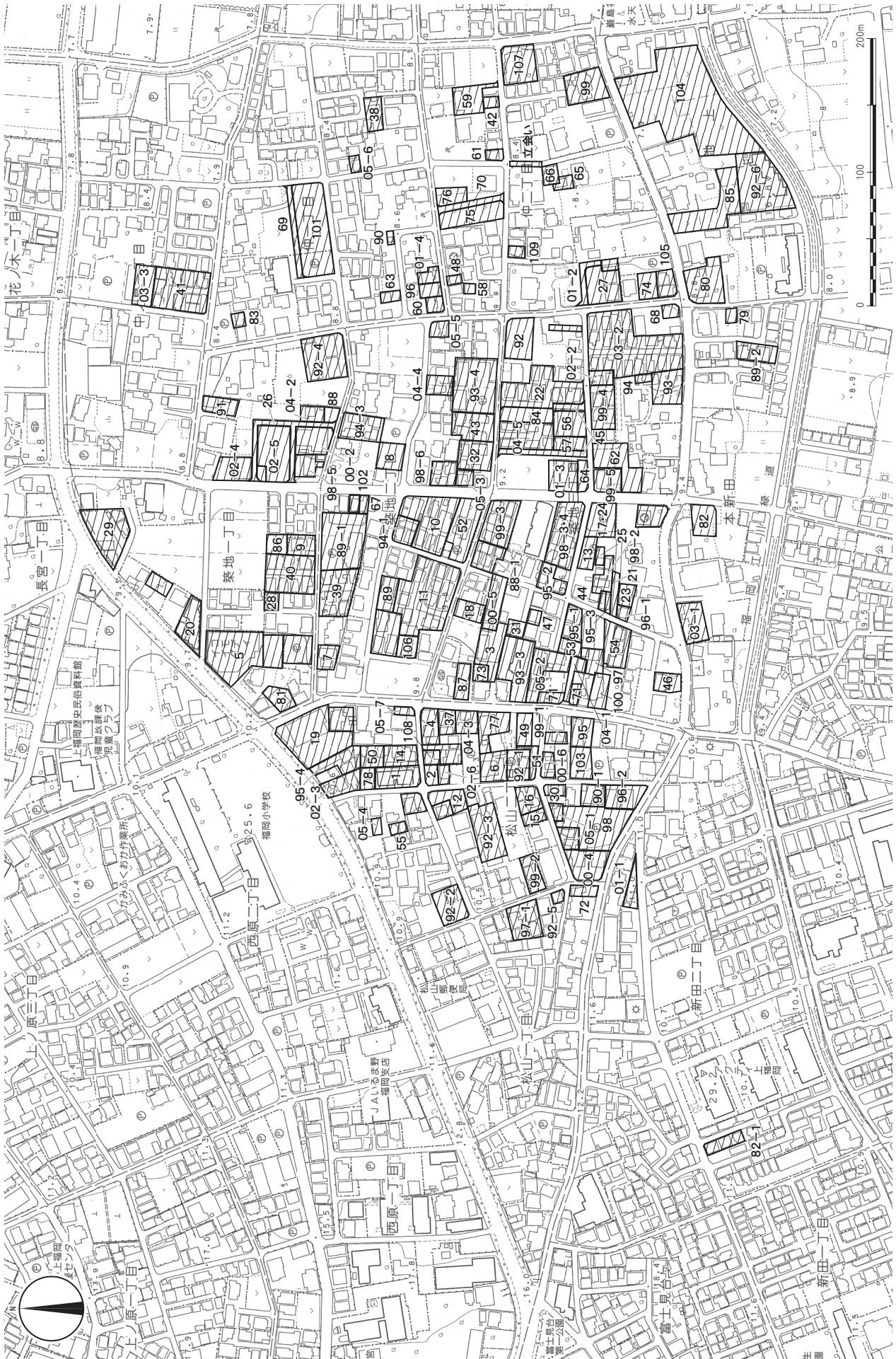
松山遺跡は、亀居遺跡付近を湧水源とする福岡江川の左岸、武蔵野台地の一段低い立川段丘面に立地している。東側は荒川低地の沖積地と接し、標高9～10 m前後の微高地を形成する。遺跡の範囲は南北500 m、東西600 m以上である。宅地開発されるが部分的に畑が残っている。

周辺の遺跡は、すぐ北側に縄文時代早期～後期、飛鳥時代および中近世にわたる長宮遺跡、福岡江川を挟んだ対岸には福岡新田遺跡、同じく対岸の250 m南東側には、縄文時代前期集落の鷺森遺跡がある。また、西方約350mの比高差9 mを持ってそびえる台地の南東崖面には富士見台横穴墓群が望まれる。

1978年の宅地造成に伴う緊急調査で奈良時代の住居跡を検出したのをはじめ、宅地造成などにより2022年4月現在約164地点で試掘および調査が行われている。主たる時代と遺構は、長宮遺跡と接した北寄りに飛鳥時代の住居跡、遺跡中央の東西240m、南北210m程度の範囲に奈良・平安時代の住居跡・掘立柱建物跡・井戸跡、中近世以降の溝・井戸跡などである。特に溝・井戸等の中近世の遺構は東側の低地へも広がりを見せており、遺跡範囲の変更増補を行った。

第11表 松山遺跡調査一覧表

地区 地点	所在地	調査期間 ()は試掘調査	開発面積 (㎡)	調査面積 (試掘)	調査原因	確認された遺構と遺物	備考	所収報告書
77	松山 2-6-2・3・12 の各一部	(2014.3.3 ～ 11) 2014.3.13 ～ 26	493	(95) 22.8	個人住宅	古代住居跡1、土坑、墨書土器、土師器等		市内 18
78	松山 2-5-5	(2014.5.22)	242	(35.3)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 20
79	本新田 395-1 の一部	(2014.8.5)	153	(36)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 20
80	池上 372	(2015.3.12)	1,183.4	(90)	個人住宅	遺構なし、焙烙等		市内 20
81	築地 1-1-12	(2015.3.23)	247.49	(74.3)	分譲住宅	溝、遺物なし		市内 20
82	本新田 411 の一部	(2015.7.30・31)	194	(35)	個人住宅	堀跡、縄文土器		市内 22
83	仲 1-2-22	(2015.8.31)	98	(6)	分譲住宅	遺構なし、縄文土器		市内 22
84	築地 3-4-13	(2015.9.15・16)	455	(190)	宅地造成	古代住居跡1、井戸、縄文土器等		市内 22
85	池上 362-1 の一部、 364・365・366 の一部	(2015.10.1 ～ 19) 2015.10.20 ～ 26	1,244.47	(485.6) 93	分譲住宅	古代住居跡2、焼土、溝、須恵器等		市内 19
86	築地 1-1-4	(2016.7.5・7)	294	(37.9)	分譲住宅	溝、陶磁器		市内 24
87	築地 3-1-21・22 の一部、 39・40・41・84	(2016.9.14)	427	(29.5)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 24
88	築地 1-3-36	(2016.10.13)	120	(18.8)	個人住宅	土坑、ビット、溝、遺物なし		市内 24
89	築地 2-1-11・16	(2017.3.3～6)	287.04	(89.3)	分譲住宅	遺構なし、須恵器		市内 24
90	仲 1-1-37 の一部	(2017.10.12)	120	(12)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 24
91	築地 1-3-8 の一部	(2017.10.24)	416	(51.75)	個人住宅	溝、陶器等		市内 24
92	築地 3-4-3	(2017.10.30・31)	621	(177.75)	分譲住宅	土坑、ビット、縄文土器		市内 24
93	築地 3-5-72	(2017.11.27・28)	571.97	(114.35)	共同住宅	古代住居跡2、土坑、堀跡、溝、墨書土器、土師器等		市内 24
94	築地 3-5-4	(2018.3.23)	1,508	(17.25)	作業場	古代住居跡1、ビット、土師器等		市内 24
95	松山 2-1-12	(2018.8.1・2、9.13)	353	(38.96)	分譲住宅	遺構遺物なし		市内 25
96	仲 1-1-34	(2018.8.20)	165.43	(31.95)	分譲住宅	堀跡、遺物なし		市内 25
97	築地 3-1-5・7 の各一部	(2018.10.30)	253	(61.93)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 25
98	松山 2-2-4	(2018.11.1)	1,291.34	(54.46)	店舗	遺構なし、須恵器		市内 25
99	仲 2-4-2	(2019.1.11 ～ 15) 2019.1.21・22	673.35	(201.25) 33.8	分譲住宅	堀状遺構、陶磁器等		市内 23
100	築地 3-1-5 の一部	(2019.8.8) 2019.8.9～23	327	(21) 45	個人住宅	古代住居跡1、土師器等		市内 25
101	仲 1-2-52・54	(2019.10.30～11.1)	1,219	(222)	分譲住宅	土坑、溝、遺物なし		市内 25
102	築地 2-3-14・15	(2020.3.17)	91	(5)	分譲住宅	遺構遺物なし		市内 25
103	松山 2-1-4 の一部	(2020.6.10～12)	462	(137)	共同住宅	溝、土師器等		市内 26
104	池上 356-1、357、 360 の各一部	(2020.9.28・29)	1,586.87	(64.75)	宅地造成	土坑、溝、須恵器片		市内 26
	池上 355、356-1、357、 360、361 の各一部	(2020.9.28・29)	2,944.13	(4)	宅地造成	遺構遺物なし		市内 26
105	仲 2-1-8	(2020.10.22・12.25)	257.87	(77.65)	共同住宅	遺構なし、陶磁器		市内 26
106	築地 2-1-8	(2021.6.1)	198	(57)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 27
107	仲 2-4-10	(2021.6.2)	422.94	(10.5)	分譲住宅	ビット、溝、遺物なし		市内 27
108	松山 2-6-8	(2022.2.16)	145.8	(11)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 27
109	仲 2-1-16	(2022.3.7)	99.17	(23.25)	分譲住宅	遺構遺物なし		市内 27



第18図 松山遺跡の地形と調査区 (1/4,000)



II 松山遺跡第 106 地点

(1) 調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より 2021 年 4 月 20 日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の中央部やや西寄りに位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため 2021 年 6 月 1 日に試掘調査を実施した。

試掘調査は幅約 1.5m のトレンチ 3 本を設定し、重機による表土除去後に人力による表面精査を行った。現地表面から地山ローム層までの深さは約 14 cm である。

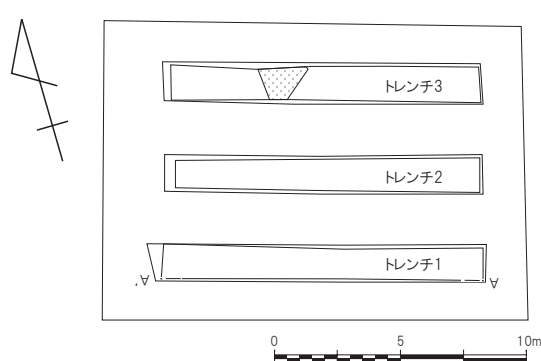
調査の結果、遺構・遺物は確認されなかったため、写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。

III 松山遺跡第 107 地点

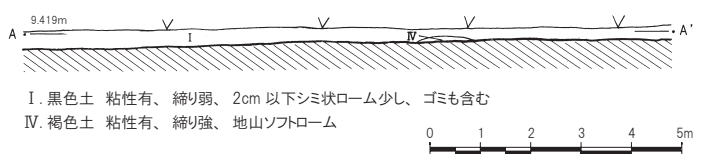
(1) 調査の概要

調査は分譲住宅建設に伴うもので、原因者より 2021 年 3 月 29 日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の東部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の

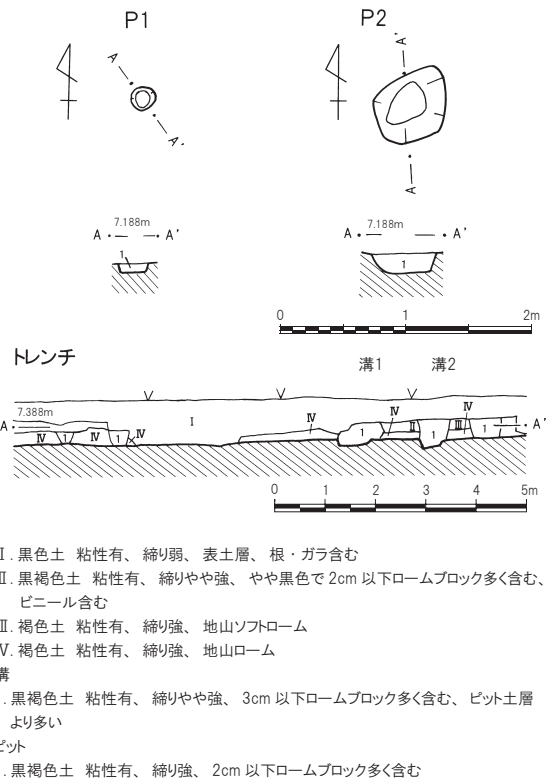
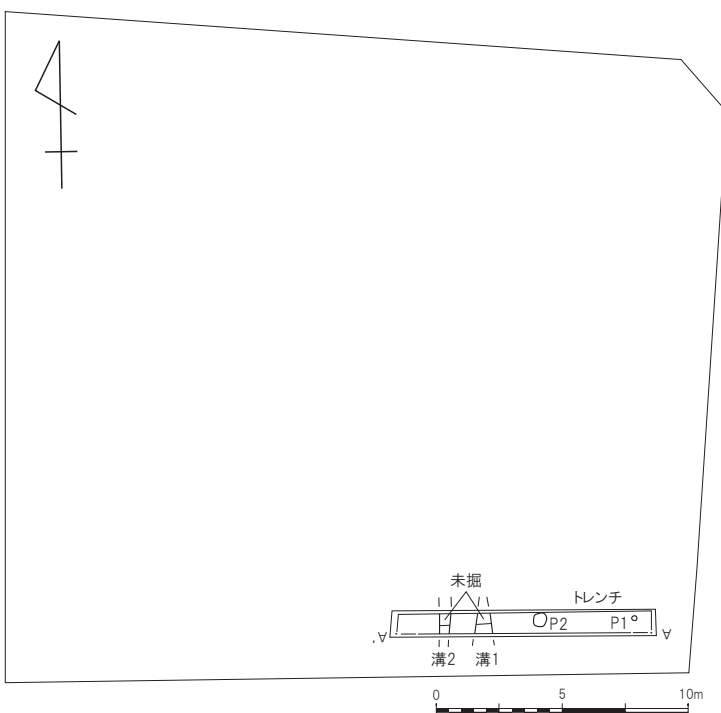
第 106 地点



トレンチ 1



第 107 地点



第 20 図 松山遺跡第 106 地点調査区域図・第 107 地点遺構配置図 (1/300)、土層 (1/150)、ピット (1/60)

存在を確認するため2021年6月2日に試掘調査を実施した。

試掘調査は幅約1mのトレンチ1本を設定し、重機による表土除去後人力による表面精査を行った。現地表面から地山ローム層までの深さは約50cmである。

調査の結果、時期不明のピット2基、溝2条を検出したが、遺物は確認されなかった。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。

(2) 遺構と遺物

①ピット

【ピット1】ピット1は調査区南東部で検出した。平面形態は円形で、遺構の規模は確認面の規模は20×18cm、底部19×13cm、深さは11.2cmであった。

【ピット2】ピット2はピット1の約3m西側で検出した。平面形態は台形。確認面の規模は60×51cm、底部36×24cm、深さは31.3cmである。

ピット1・2ともに遺物は出土しておらず、また土層観察からも時期の推定はできなかった。

②溝

【溝1】調査区南東部で検出した。断面形態は逆台形を呈し、上幅50～72cm、深さは14.2cmである。

【溝2】溝1の西側に並行して検出した。断面形態は逆台形を呈し、上幅38～45cm、深さは15cmである。いずれの溝も試掘のため底面までは確認していない。

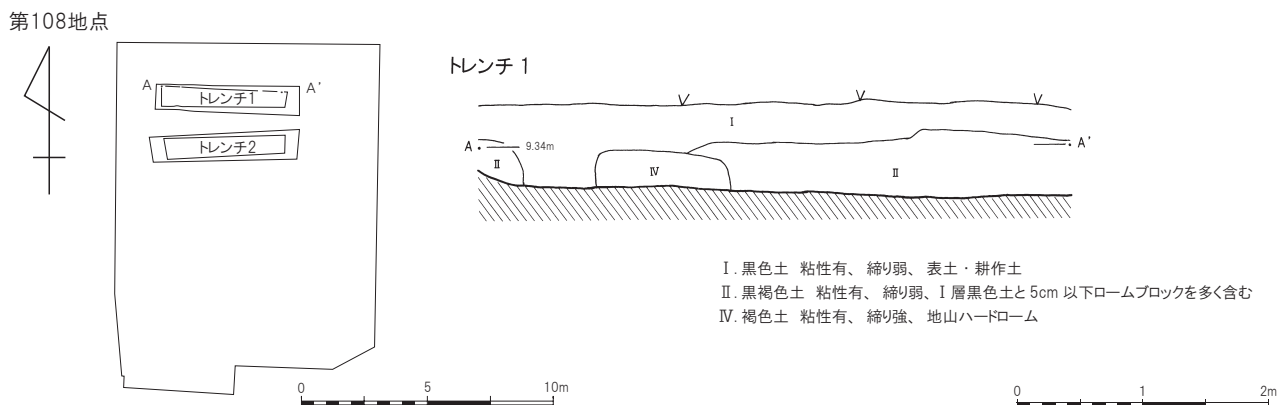
IV 松山遺跡第108地点

(1) 調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より2022年2月8日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の西部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため2022年2月16日に試掘調査を実施した。

試掘調査は幅約1.1mのトレンチ2本を設定し、重機による表土除去後に人力による表面精査を行った。現地表面から地山ローム層までの深さは約30～40cmである。

調査の結果、遺構・遺物は確認されなかったため、写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。



第21図 松山遺跡第108地点調査区域図(1/300)、土層(1/60)



松山遺跡第 106 地点トレンチ 1



松山遺跡第 107 地点トレンチピット 1・2



松山遺跡第 107 地点トレンチ溝 1・2



松山遺跡第 107 地点ピット 1 土層



松山遺跡第 108 地点トレンチ 1



松山遺跡第 109 地点トレンチ 1